

アーチル発達障害基礎講座(初任支援者向け) 第二部

アーチルの役割機能と 関係機関との連携による地域支援

北部発達相談支援センター 成見憲介

アーチル発達障害基礎講座(初任支援者向け) 第二部

動画の流れ(3本立て)

- 1 発達相談支援センター(アーチル)について
- 2 アーチルの相談の現状と課題
- 3 地域での発達支援充実に向けた関係機関との連携

1 発達相談支援センター(アーチル)について

～ 生涯ケア・将来の自立に向けて ～

発達相談支援センター(アーチル)とは

- 発達障害のある本人とその家族を対象とした
仙台市直営の相談機関

本人・家族とともに



- 発達相談(療育)
- 地域での相談・支援

地域・市民とともに

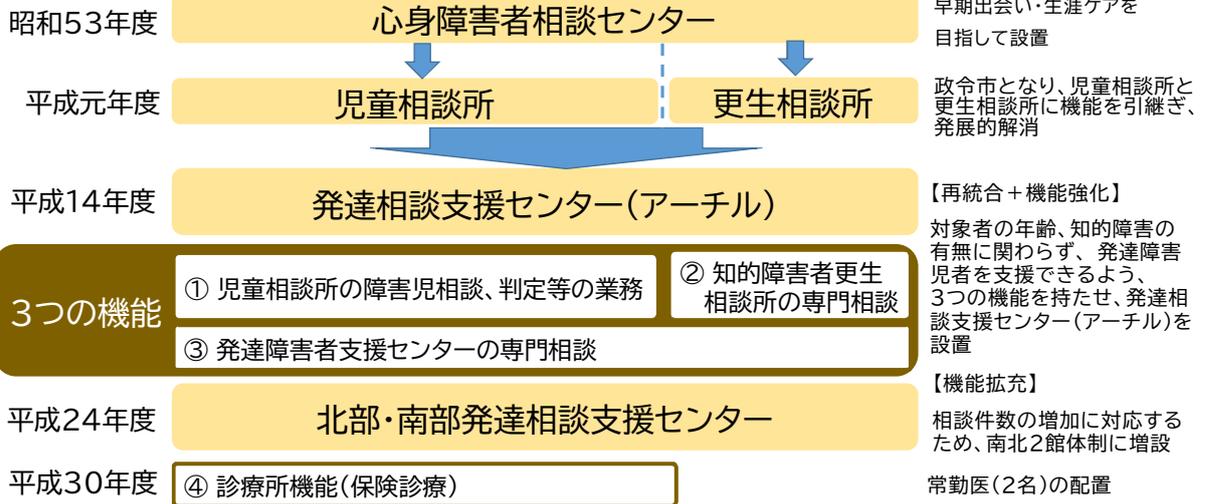


- 市民への普及・啓発
- 地域との連携・協働

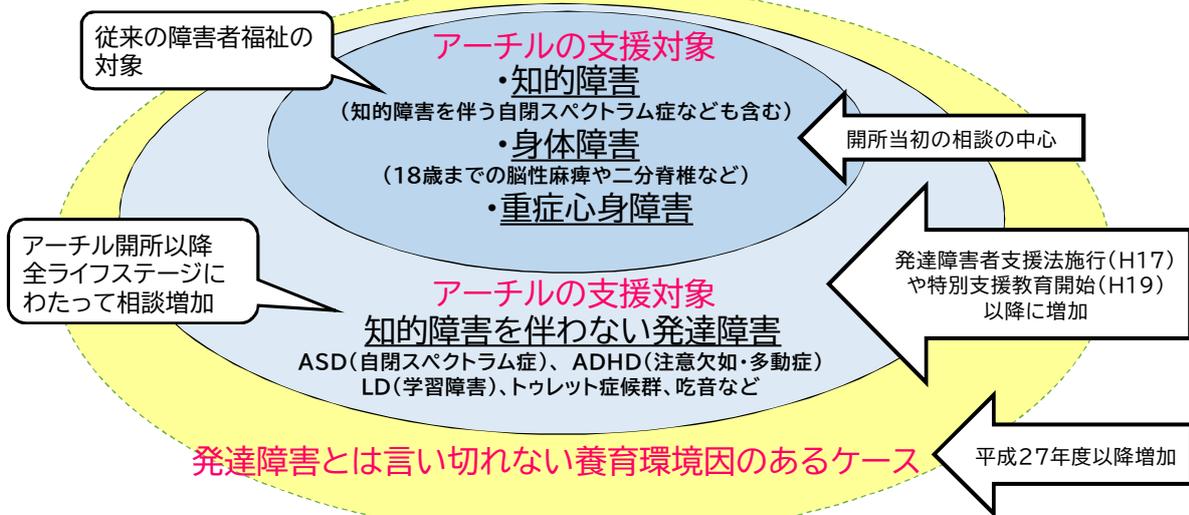
- 「アーチル」という愛称は「アーチ(橋)」と「パル(仲間)」をかけたものです
障害のある方やその家族と地域の様々な方との「架け橋」になるようにとの願いが込められています

沿革・機能

乳幼児(0歳～就学前) 学齢児(小1～18歳) 成人(18歳以上)



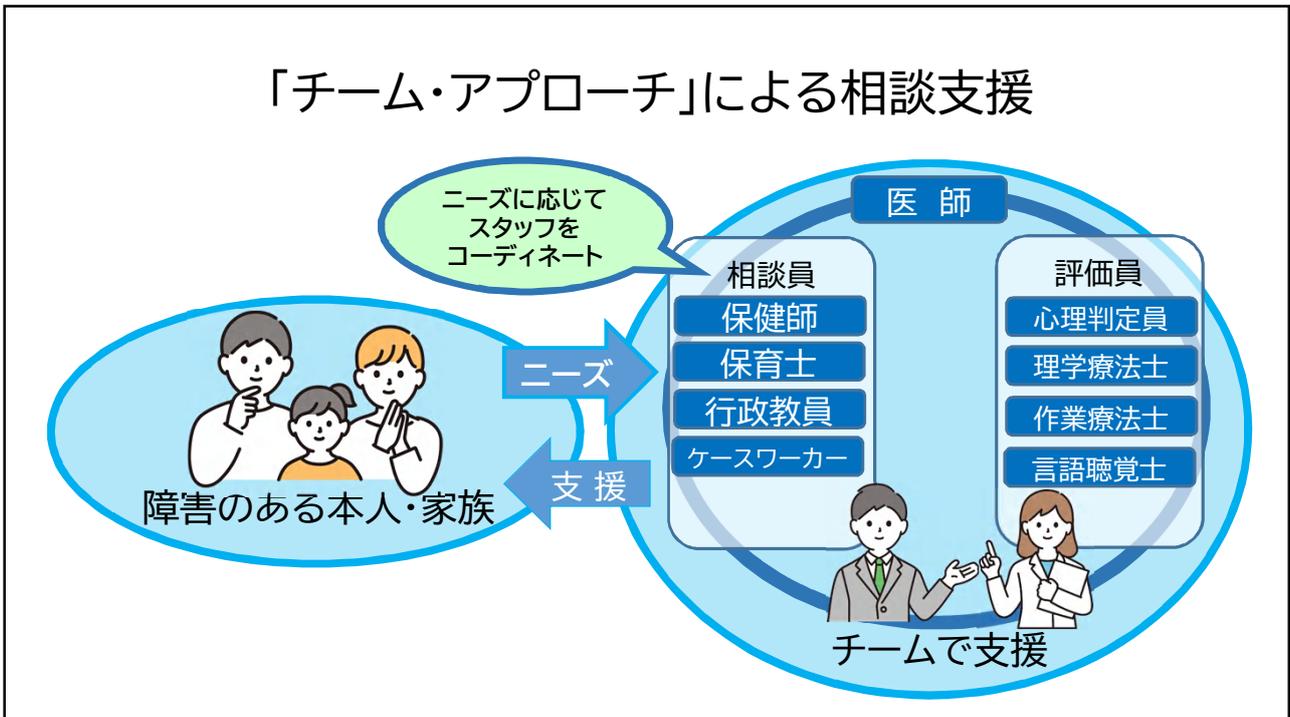
相談につながる層の広がり



アーチルの組織



「チーム・アプローチ」による相談支援

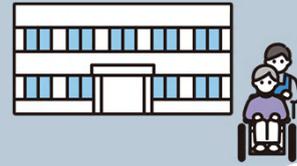


アーチルのおもな業務

相談支援



施設支援



普及啓発



ネットワーク構築



アーチルの理念 (心身障害者支援センターより継承)

発達障害のある方が健やかに育ち、
地域で生き生きと暮らせるために

発達に心配がある
本人・家族との

早期出会い

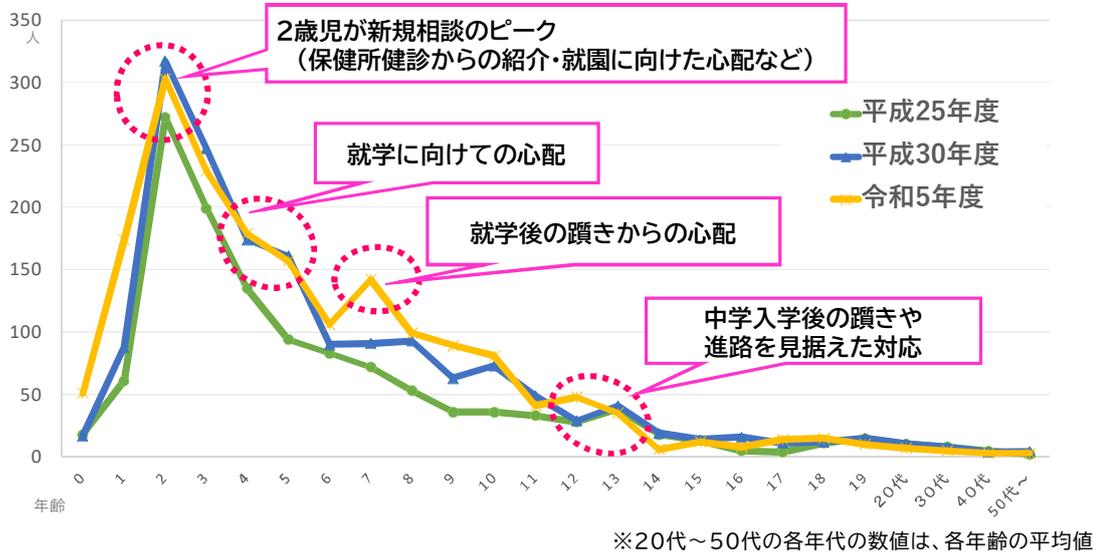
乳幼児期から
成人期まで一貫

生涯ケア

関係機関との連携
普及・啓発

地域生活の支援

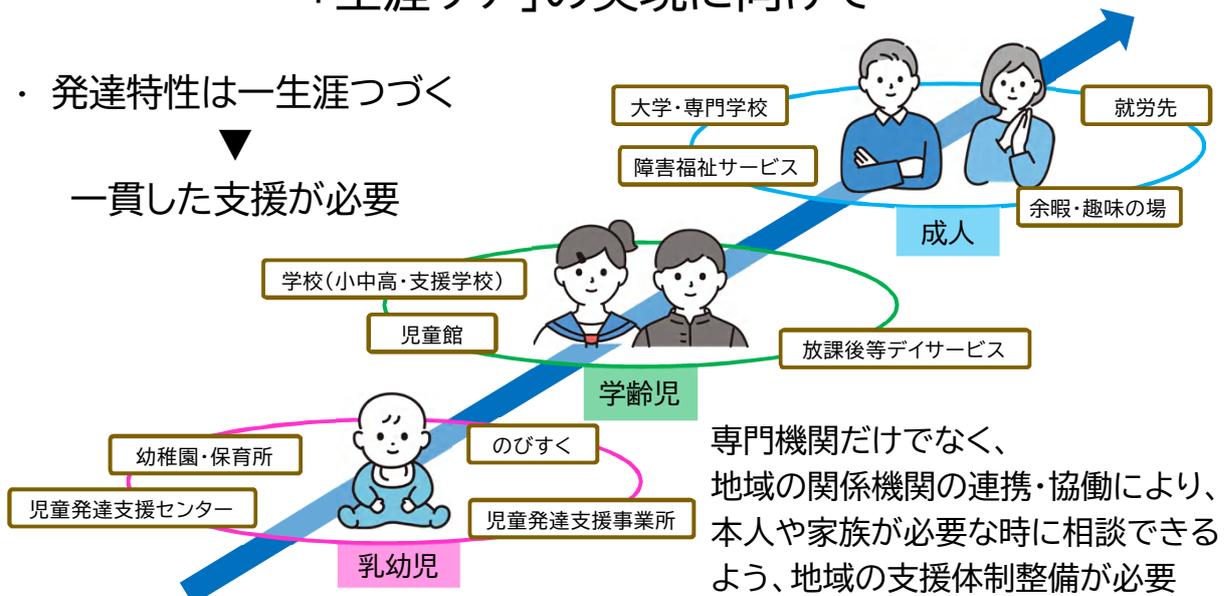
新規(初回)相談件数の年齢別推移



「生涯ケア」の実現に向けて

・発達特性は一生涯つづく

一貫した支援が必要



成人期の「自立」と「社会参加」が目標

・「自立」とは

自分の望む生き方を自分なりに決定し、必要に応じて、周りの手助けももらいながら実現していくこと

自立

社会参加

成人

自信が持てない

集団がこわい

・成人期の「自立」と「社会参加」を実現するためには、

「2次的な問題」の予防が重要

人と接するのが不安…

意欲がわからない

関係機関との連携で共有したい視点

成人期の「自立」と「社会参加」

相談する力

自立的行動

自己有用感

自己肯定感

人への信頼

安心感

日々の過ごし場での経験の積み重ね

認められた

伝わった

ほめられた

できた

本人への理解・発達特性に合わせた対応

まとめ：将来を見据えた支援の視点

- ・成人期の「自立」と「社会参加」が支援の目標
- ・そのためには「2次的な問題の予防」が重要
- ・支援のベースに必要なことは、
 - 周囲の理解
 - 特性に合わせた対応

